

昨年の6月より、監事の職を担わせていただくことになりました。

私は35年前に単立教会の牧師として盛岡に遣わされ、1994年から、岩手キリスト教学園本部事務局で学校法人実務に従事しています。学校法人の実務経験年数は長いのですが、社会福祉法人実務は全くの初心者です。これからさまざまな経験を重ねながら、学びを深め職務を担っていきたくないと願っています。よろしくお願い致します。

カナンの園との出会いは、1995年にさかのぼります。ヒソプ工房で毎月はじめに行われる礼拝の奨励において、市内の牧師奉仕者の一人に加えていただいたところから始まります。

当時はヒソプ工房開設2〜3年目の頃でしたから、作業場には新築の香りが漂っていました。礼拝では利用者の



大原敬先生。

皆さまと一緒にゴスペルソング「君は愛されるために生まれた」を歌います。その歌詞の一節で「永遠の神の愛が、わ

れらの出会いの中で実を結ぶ。君の存在が私にはどれほど大きな喜びでしょう」と歌います。歌詞の意味をかみしめずにはおられません。一人ひとりの存在が互いにとって大きな喜びであること。神様の愛は出会いの中で豊かな実を結ばせてくださっていること。ヒソプ工房での礼拝は私にとって大切なライフワークの一つになっています。

礼拝後、何回か青果の袋詰め作業を経験したことも貴重です。山積している段ボール箱の青果の量にたじろぎながらも、肅々と協同で進める袋詰め作業、クッキー作り、固形石けんの袋詰め作業他、地域の要請に応じて行っている除草作業やポスティング。当時、20代だった皆さんも40〜50代になり、それぞれが自分の仕事に誇りとやりがいを感じて、長く元気に活躍している

姿に敬意を払います。

一人ひとりの働きが確実に地域に根差し実を結んでいることをうれしく思う一人です。しばしば、店頭でヒソプ工房のラベルが貼ってある品々を発見すると思わず手に取り購入しています。

カナンの園が「乳と蜜の流れる地」のビジョンを掲げ開設されてから50年間。理念が具現化されてきたことを見るとき「あなたがたの内に働いて、みこころのままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです」（フィリピ2:13）の聖書のことばを思い起こします。今後も、神様がさまざまな人々の心の内に働いて、願いや希望を与え、地域社会を豊かなものにしていくことを期待しています。そして微力ながらもその一端に加わらせていただけることを感謝しています。

TSK カナンの園

142

出会いの中で実を結ぶ

社会福祉法人カナンの園 監事 大原敬

No.142
発行日/2024年3月15日
編集/社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会（略称TSK）
〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松一丁目四一〇 頒価百円

お知らせ 送迎車両助成のお礼

日本財団様の「2023年度福祉車両配備事業」による助成を受け、となんカナン事業所への送迎車両導入が決定しました。となんカナンでは、生活介護事業を開始し、利用者さんの送迎が増加傾向にあるため、このたびの車両整備は大変感謝しています。

本年3月末の納車予定ですので、写真などを掲載することはできないのが残念ですが、この場をお借りしての感謝とご報告とさせていただきます。

あとがき

142号を手にとっていただき、ありがとうございます。今号の特集は「座談会 カナンの園について語り合おう PART 2」として、十数年の経験がある職員の座談会を企画しました。前号では、カナンの園で働き始めて数年の職員による座談会を行い、夢にあふれた職員の気持ちに触れる機会を持つことができました。今回は、より経験を重ねた職員たちが、カナンの園の現状と未来への思いを語り合いました。

座談会に同席させていただき、皆さんの話を聞きながら、自分がカナンの園に就職したときのことを思い出していました。子どもと関わる福祉の仕事をしたとぼんやりと考えていた私は、奥中山学園の子どもたちに会って衝撃を受けました。子どもたちは、純粋で、真っすぐ人を信じて、キラキラした瞳を私に向けてくれました。そんな子どもたちと過ごす毎

日は、心を澄ませてくれてとても幸せでした。彼らと一緒にいたい、とそのとき強く感じた気持ちは今も強い支えになっています。

今回集まってくれた皆さんは、カナンの園との出会いはそれぞれでしたが、経験を積んで、立場が変わるたびにそこから自分にできることを考え、いろんな人とつながりながら、根拠を持って利用者さんと関わり、悩み、苦勞しつつも周りに感謝しながら歩いているように感じました。それぞれの思いを基に未来に向かって一人ひとりが自分の足で歩きながら、それがチームとなり、その手はしっかりつながれて一つの方向に向かって前進していると強く感じさせられました。

来年度は、カナンの園第8次将来像計画の2年目。過去からつながってまた未来へ向かうカナンの園への応援、よろしくお願い致します。
(生活支援センター主任 相談支援事業所むつび担当 阿部和佳子)



2023年9月からカナン牧場で働き始めた遠山貴志さん。これまで一般就労していたのですが、健康上の理由で、やむなく退職することになりました。ご本人は、まだ働く意欲もあり、主治医からのアドバイスも受けながら、体調面での配慮を受けつつ自分らしく働きたいと、カナン牧場で働くことをご自分の意思で決めました。カナン牧場には学生時代（三愛学舎）の同級生やよく知る仲間たちがいることで安心感を持ちながら楽しみつつ働いています。

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌「カナンの園」に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せください。

社会福祉法人カナンの園

- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 ゆいまある
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 小さき群の里
☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
- 共同生活援助事業所 ののさわ
(グループホーム1〜6)
☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
- 生活介護事業所 ヒソプ工房
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 共同生活援助事業所 HANA
(盛岡地区グループホーム1〜5)
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 特定相談支援事業所 らぼーる
☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
- 生活介護事業所 シャローム
☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884

- 就労継続支援B型事業所 ウィズ
☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
- 就労継続支援A型事業所 カナン牧場
☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
- 共同生活援助事業所 美空
(グループホーム1〜10)
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 居宅介護事業所 れもん
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび
☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
- 多機能型事業所 となんカナン
☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
- カナン市場 (カナンの園商品一括取扱所)
☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

学校法人カナン学園

- 三愛学舎 (特別支援学校高等部・知的)
☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

本誌は再生紙を使用しています。



左手前：古川（ヒソブ工房）
右：笹森（事務局）
左奥：あとかぎを担当する
ため取材にきた阿部職員。

地域や外部の組織から 私たちを眺める

司会 今日はお集まりいただき、ありがとうございます。早速ですが、自己紹介から始めたいと思います。

古川 奥中山学園（以下、学園）の支援員6年を経て、現在ヒソブ工房（以下、ヒソブ）10年目です。現在は相談支援専門員、兼務で生活支援員をしています。

小川 学園の支援員4年を経て、現在と

特集 カナンの園について 語り合おう——PART2

カナンの園の歴史には、多くの職員たちが関わってきました。50余年の歴史の中で、すでに天に召された方や一線を退いた方などがある一方「働き盛り」といわれる年代をカナンの園と共に過ごしている職員たちもいます。前号に続く職員による座談会ですが、今回は10年以上のキャリアがあり、現場のリーダーとして日々奮闘している主任級の職員が集まってもらいました。

出席者

菅原光樹（生活支援センター）

古川裕美（ヒソブ工房）

小川明佑（となんカナン）

上路智大（三愛学舎）

司会

笹森雅弘（事務局）

場所

いわいの記念館

なんカナン11年目です。現在はカフェ、受注作業の支援員、また、実習生の受け入れを担当しています。

菅原 シャロームの支援員9年を経て、現在生活支援センター（以下、センター）で3年目です。相談支援専門員、兼務で短期入所の支援員、行動援護のヘルパー等をしています。

上路 三愛学舎（以下、三愛）で18年目です。現在は専攻科部長をしています。昨年度まで7年間進路担当をしていたので、外部に出る機会が多くカナンの園事業所の皆さんにもお世話になりました。

司会 ありがとうございます。今回は相談支援や進路、就労や日中活動支援などを担当している方が集まりました。外部とのつながりが多いと思いますが、外部の方からはカナンの園はどのように見えていると感じていますか。

上路 進路に関わって就労支援事業所に就労アセスメントをしてもらいます。となんカナンは他事業所に比べて評価が手厳しいのですが、クオリティーは高く、本人の実態を本人、保護者に的確に伝えていただき、ありがたいです。

菅原 私は相談支援で外部の方々との関わる機会が多くあります。以前のカナンの園は、地域をリードしているという自負もあったと思いますが、今はあまり感じません。どこも一生懸命頑張っており、地域全体の質が上がっていると思います。
司会 なるほど。他の法人や事業所とでサービスの質に差を感じないということ



古川裕美（ヒソブ工房）。

でしたが、ではなぜカナンの園でこの仕事をしているのでしょうか。

古川 その質問はされると思っていました（笑）。学園時代に子どもたち、先輩職員からもらった手紙や誕生会でもらった寄せ書きの色紙、三愛の先生からも節目で手紙をたくさんいただきました。そういうものが心の支えになっています。

小川 学生時代に進路を考えていたとき、学園のボランティア経験を通して、自分が納得できる療育を行っており、ここで学びながら働きたいと思いました。働いている中では大変なこともありましたが、皆さんに助けられながら、ここまで来ることができました。その時々での支援がうまくいくことはとても大切ですが、この仕事はそれだけが大切なのではない、と受け止めてくれる上司がいて頑張ろうと思いついています。

菅原 続けているというより、辞めなかつただけかな。つらかったこともありましたが、徐々に肩の力が抜けてきました。



上路智大（三愛学舎）。

法制度を超えて 個々に寄り添う

司会 社会の状況や制度が変わってきていると思いますが、入職したころとの変化に対して何か思うことはありますか。

上路 入学してくる生徒の実態が変わっ

先輩に認めてもらったこと、褒められたことが心に残っており、自分もこうなりたい、教えてもらった恩を返したい、そして自分ももっとできるかもしれないということを繰り返していたら今に至りました。

上路 私は大学の先生の紹介で三愛のことを知り働くことになりました。理解してくれる先輩方、付いてきてくれる先輩の存在があるからだと思いますが、大変だから辞めたいということを考えたことがありませんし、辞めるとしたら、それは今の職場とは別にやりたいことが見つかり、働く場所が決まったときだと思います。今はそれがありません。



左より菅原光樹、小川明佑、古川裕美、上路智大、笹森雅弘。

てきています。言葉でのやりとりができる生徒が増え、関わり方が変わりましたし、卒業後の進路先も以前とはだいぶ違います。でも、だからといって、支援しやすいということではなく、大変さの質が変わってきたように感じます。

古川 私は児童施設から成人施設に異動しました。学園のときには、卒園して社会でどう暮らしていくのかを考えながら送り出してきましたが、ヒソプでは迎え入れる側となりました。学園の生活はゆつくり時間が流れていましたが、ヒソプでは決まった時間内にノルマをこなすことを求められスピード感が違うと感じました。10年いて、利用者さんやご家族の様子も変わっていく中で、作業内容は変わらずにヒソプ工房で働き続けている利用者さんを見ると本当に尊敬します。ただ、同時に一人ひとりに必要な活動内容は本当にこれで良いのか？と自問自答してしまう自分がいるのも事実です。

菅原 センターに異動して感じることは、若くてバリバリ働いて一般就労したい方もいれば高齢の方もいて、差が極端なことです。その方たちが同じ空間で過ごすことは難しいですし、職員もさまざまなスキルを求められます。また、効率化もしていきたいこともありますが、利用者さんとの面談はそうはいかないので時間がかかります。2時間程度かかるときもありませんが、必要なことだと思います。

小川 制度上の変化では、就労の場合は影響が大きいです。行政の方針や制度と利

暮らしと仕事とのバランス

司会 仕事へかける思いなど、先輩から学んできたことも多いと思います。反面、社会の価値観も変わってきているとも思います。特に暮らしと仕事とのバランスを考えていくことが大切といわれていますが、そのことについて何かありますか。

小川 私は産休明けの1年間、子どもが夜泣きし、睡眠数時間くらいで仕事をしていたことがあり大変でした。自分でもよく頑張ったと思いますが、仕事と生活の両立支援の制度を整えてもらって楽になった職員もいると思います。状況によって大変な人も思うので、制度でカバーすること職員間でコミュニケーションをとることが大切で、今度は私が支えあげたいです。

菅原 私は妻がヒソプで働いているので、お互いの職場で家庭状況を理解してもらい、助けてもらっています。シャローム在籍時に同僚の女性職員たちが計4回産休・育休を取りました。いる職員たちで支援の質を維持しながら、体制を整えてきました。大変でしたが、次第に、職員が少ない状況でも対応できるようにになりました。今のカナンの園では、子育てをしながら役職も担っている女性職員もいて、男性でも女性でも自信を持って自分の人生を選べるのはいいことだと思います。**上路** 私たちも子どものことで休みの希望があった際には快く受けています。そ

用者さんの実態が合致するときもあれば合わないときもあります。利用者さんに合わせて事業所として変化するのがいいのか、事業所のやっていることに合わせてもらうのがいいのか常に迷いがあります。合わないからといって最初から受け入れを拒みたくないですし、在籍している方々の日常が変化してしまうこともあるので、何を優先して、どこまで支援するのか、それに対応できる職員のマンパワーが確保できるかなど、私たちができること、それ以外の支援でできることがないかを常に考えています。

サービスの付加価値を自らに問い続ける

司会 現実にはサービスが足りなく、どうやって生み出したらいいのか試行錯誤していると思いますが、カナンの園で明らかに足りないものはありますか。

小川 これまで不登校だった方やひきこもりの状態だった方が就労支援事業所に通おうとしても、働くことや集団の活動になじめず、現実的に通所するのが難しく、やってみて続かない場合があります。この場合、支援が途切れてしまうので何かできればいいですが、今の制度では難しいです。

古川 サービスとは別の話になりますが、三愛学舎の専攻科の2年間は、生徒さん親御さんにとっても大切な2年間だと実感しています。学校在籍中は卒の中で

の代わり自分が休みたいときには休ませてもらっていますし、お互いさまという感覚は職場内に出来上がっています。

激変する時代に 対応できるスキルを

司会 働く環境も、自分たちの役割も変わってくる中で、これから大事にしてきたいことはありますか。

菅原 研修などで他事業所との交流は増えたと思います。お互いの事業所の大変さを話しますが、それだけでは愚痴で終わるので、ではどうするかということまで話そうにしています。この仕事は時間がかかる仕事で、小手先ではできないと思います。特に私は不器用で、準備しないと不安なので、20代のときはとにかく必死に働いていました。時間はかかって、頑張った努力したことが目に見える形で評価される職場や職業であってほしいです。これから働く人たちのためにも、



菅原光樹 (生活支援センター)。

頑張ればよかったのが、社会に出て卒がはずれた中で適応できず葛藤し、結果体調を崩される方もいます。病院のデイケアでもなく、就労でもなく、その中間の居場所があればいいと思います。

上路 学校の進路については難しい事案でも最終的には移行先を見つけてます。就業意欲があれば、目標を持って社会に出ていくことができます。近年働く意欲がない、授業に出たり出なかったりする生徒が増えてきたという傾向があり、これは本校のことだけではない課題だと思います。そのような生徒が社会に出たときにどのような居場所が必要になってくるのか、フリースペースがあったとして果たしてその場所に行くことができるのか不安があります。また、近年は次々と放課後等デイサービスを行う事業所が増え、利用者さんも増えていきます。その方々がやがて高校生になり、社会に出ていくときの受け皿が必要になってくるので、今のサービスにプラスで付け加えていく必要があると思います。

小川 確かに自分の状態を受容できていない方の相談は多く、その場合、居場所としても成り立たないこともあります。実習の経験が次のステップにつながっていればいいのですが難しいことが多いです。サービスがあればいいということではなくて、つながっていく支援が必要で、もっと前の段階でできることはないかと思うことがあります。

菅原 私はまずそれぞれの現場同士がお互いの方向を間違えないように働いていきたいです。

小川 世の中の価値観が変わっていく中で、自分が教えてもらったことを伝えるだけではうまくいかないと思います。コミュニケーションを取りながら方向性を共有できるようなスキルを身に付けるよう、みんなで底上げしていきたいです。今は小学校1年生から学校でタブレットを使う時代で驚いています。今後ツールはどんどん変わっていくと思うので、福祉のことだけではなく違う業界のこと、違う視点のものも取り入れていきたいです。また、人材が足りない中で持続していきけるように、これまでの考え方を考え、柔軟に対応できるようにしていきたいです。

上路 三愛学舎は異動がないので、考え方が凝り固まりやすい組織だと思います。社会福祉法人では人事交流がありますが、学校も学校外との交流が必要だと思います。生徒は職場実習をしますが、職員も外部に出て働くことについて勉強しなければならぬと思います。カナンの園では何か物事を決めるときにスピード感、柔軟性がほしいです。他法人では状況に合わせて素早く展開している事業所がありました。その瞬間瞬間に必要なことを行っていると思いました。組織が大きくなると何かを変えるときに時間もかかってしまいますので、スピード感が必要だと思います。進路を担当していただく感じは、全てをカナンの園が担うのではなく、地域に必要な手を当てていくことも



小川明佑 (となんカナン)。

互いのことを知り、分かり合うことが大事だと思います。さまざまな市町村と連絡を取り合いますが、サービスを受けようにも選択肢が少なく、さらに移動手段がないなど、かなえないけど実際には難しいという課題が多くあります。カナンの園だけではできないことを整理していく必要があると思います。

古川 相談を担当するようになって、学園時代に関わっていた方の親御さんと話す機会も多いです。ある親御さんから「学園の生活が良かったため、社会に出てからギャップを感じていた。卒園して約20年たち、地域で生活しているが、カナンの園のグループホームに入ることはできないか」と相談がありました。20年たっても学園の暮らしが残っているんだと思いました。しかし、グループホームに空きがない状態ですし、いいですよと即答できない自分がありました。

大事だと思います。

古川 私の原点は学園にあり、今もその思いで仕事をしています。先日、卒園した方と話す機会があり、学園の思い出は何か聞くと「みそ汁作り」や「雪かき」と答えてくれました。クリスマス会やパーベキュー、誕生会などの楽しい行事もたくさんあったと思いますが、日常の暮らしが彼にとってよい思い出になっていたんだと思います。「日々の暮らしそのものを大切にしたい」と自分たちが願っていたことが根付いていたのだと思います。内部にだけいたときには考え方が凝り固まっていたと思いますが、県の知的障害者福祉協会の支援スタッフ委員長になったことで、外部の人とのつながりが広がりました。改めてカナンの園の良さを感じることができました。カナンの園内外での交流を増やし、自分たちに求められていることは何かということを知る努力が必要だと思っています。

また、今の夢は、以前カナンの園で行っていたデンマーク視察研修に行つて学びたいということです。

司会 皆さんの思いを聞くことができ、とてもいい機会になりました。スピード感、サービスがないところをつくっていくことなど、皆さんの思いをつなぎ、よりよいカナンの園にしていければと思います。ありがとうございます。

私の気持ちなんかわからない！

三愛学舎
花下浩之



三愛学舎では、15歳から20歳までの生徒たちが学んでいます。この時期は青年期ともいわれ、心身の大きな成長につながる大切な時期です。しかし一方で個々の内面が大きく揺れ動く時期でもあります。

そのため、毎日、登校してくる生徒たちの中には、気持ちや体調面が整わず朝から「〜が不安」「〜が嫌だ」「イライラする」「おなか痛い」「家に帰りたい」など日々の不安や悩みを訴えてくる生徒も多く、彼らが毎朝元気に学校に来てくれることが当たり前のことではないということをつくづく実感させられています。

大人にとっても生きづらさを少なからず感じてしまう世の中で、生徒たちにとってはなおさら日々不安や悩みが多いのは当然かもしれません。

そんな生徒たちに寄り添い、不安や悩みを耳を傾けるときに、いつもある一人の生徒のことを思い出します。Aさんは、私が三愛学舎に勤め始めて数年後に担任を受け持った生徒でした。

入学後、新しい環境や人にもなかなか慣れることができず、これまでのつらい経験から自分の存在意義さえも否定してしまいうほど、心に大きな傷を抱えていました。そのため、周囲にも心を開けず、皆と一緒に活動に参加することも難しい時期が続きました。

担任になった私は、まずは学校がAさんの居場所になれるよう取り組み始めました。他の教職員の理解や協力もあり、Aさんを学校全体で支える体制をつくることができましたが、Aさんにとっては自分の存在を肯定的に受け止めてもらえた経験は初めてだったよ

うで、これまで我慢していた自分の思いや感情が溢れ出し「もっと見てほしい」「もっと受け止めてほしい」と日ごとに職員への求めが強くなってしまいう結果となりました。

しかし高まる欲求はなかなか満たされず、自分の思いを通すために、職員の間を隠したり、体育館の窓から飛び降りようとしたり、と私たちの気を引くためのさまざまな行動をしてきました。当時20代半ばだった私はそんなAさんの様子に戸惑い、彼女に巻き込まれないよう必死に大人の考える正論で応えることしかできませんでした。

「花下先生には私の気持ちなんかわからない！」。状況が膠着し、困り果てていた私への突然の一言でした。それは、心の内にある怒りと悲しみを全てぶつけるような叫びにも聞こえました。

当時の私は、担任として誰よりもAさんを理解しようと努力していたつもりでした。でも、日々表わされる言動にばかり目を奪われ、本当にAさんが伝えたかったこと、その思いや願いままで考えが及ばなかったのです。この出来事は今も生徒と関わる際の大きな教訓となっています。

言葉は互いにコミュニケーションを図るうえでとても便利ですし、行動は実際に目に見えるので、本人の状況を理解するのに役立ちます。でも、その便利さゆえに、生徒が抱える「内にある思いや感情」を見る目を曇らせてしまう側面もあるように思います。Aさんの言葉（叫び）は、そのことに気付かせてくれました。

経験を何年積んでも、日々生徒と関わる中で、悩むことや葛藤することも多くあります。そんなときには、少し立ち止まって生徒一人ひとりの「内なる言葉」に耳を傾けてみます。うまくいくことばかりではありませんが、そのような関わりの積み重ねは確実に生徒からの信頼や安心感につながっていると実感しています。

そんな私を見て、社会人となった今のAさんはどう思うでしょうか？ 私が過去の失敗を繰り返してしまわないように、これから見守っていてほしいと願っています。

column & column.

命のバトン

聖坂養護学校（※） 元校長 松井務

自称百姓の私は土を愛し生産に携わっています。米、麦、大豆や野菜を作り、家族を養っています。信濃の国（長野県上田市）別所温泉に移住して丸8年、援農を含めて11年、やっと半人前です。カナンの園機関誌第141号の巻頭言を拝読し、カナンの園の歴史に触れて応援メールを送ったことが縁で投稿させていただきました。

昔から農は土作り、良い百姓は米を作らず土を作るといわれてきました。自然農法の福岡正信さんに学び、草や虫と共に作物を育てています。神様につくられた大自然は多様な命を育んでいます。人間もまた被造物に過ぎません。

私がカナンの園を知ったのは聖坂養護学校に就職して間もなくでした。特別支援教育の免許取得のため東洋大学に通いました。当時のカナン学園分教室の先生に声を掛けていただき、2人の熱意と共にカナンの園に思いをはせました。養護学校義務化前の話です。三愛学舎の前身となる分教室と2人のご婦人が取り持ってくださいました。縁です。

その後、聖坂と三愛学舎は同じキリスト教主義学校ということで交流が続きます。生産者と

なり多くの恵みを大地から頂きますが、最大の恵みは信仰心が深まったことです。イエスさまの御言葉が理解でき、日々の農作業や環境整備を通して神様の嗣業を担わせていただいている実感があります。

生産物は、家族と親戚で分かち合い、余剰分は近所に配っています。別所に来てみそ造りを再開し、しょうゆも造り始めました。手前みそです。手造りのみそは市販のものとは別物で、とてもおいしいです。

カナン牧場の向井所長に応援メッセージを送ったのは、カナンの園の歴史が私の生い立ちと重なったからです。祖父が満蒙開拓団で3人の子どもを連れて渡りました。11歳で満州に渡った父は命からがら逃げおおせて赤城山麓に入植しました。奥中山を開墾した人たちも同じ苦労をした先達です。

カナン牧場ではパンを製造販売しています。生産者の私が最も気になったのが材料です。食糧増産のため化学肥料を使ってきた小麦と自然農法の草と共に育ち虫にも負けない小麦では質が違います。化学肥料は生産量を増しますが異質のものとなります。

パンを通して命をつなぐ、というみこころになった経営にはさまざまな困難があると思います。カナン牧場がこれからも神様の大切な仕事を担っていかれるように祈っています。

※現聖坂養護学校

News

新しい環境を迎えて

ウィズ事業所副所長 安ヶ平淳一

2023年12月、ウィズ事業所の新しい更衣室兼事務所が完成しました。男・女更衣室、ユニバーサルトイレ、事務室が併設された建物です。更衣室兼事務所を新築し、これまでのプレハブの建物から環境を改善することができました。ウィズ事業所は、ペットボトルなどのリサイクル作業を主とし、半屋外での立ち仕事ですので、その分このような建物はとてもありがたいものです。今後も一人ひとりの「働く」という気持ちに配慮していけるよう、環境の改善に努めていきたいと思っています。

新しい建物について、利用者さんを代表して滝本直弥さんに感想を聞きました。

「とてもきもちがいいです。あったかいです。きがえがらくです。ロッカーきれいです。とてもがんばりました」



滝本直弥さん。